

テオフィリンは危ない?! 院長

皆さん喘息で使用するテオフィリンという薬を知っていますか。先日のNNNドキュメント「投毒-薬を毒に変えないために-」を見た方もいると思います。時代によって使い方が変わってきたテオフィリンについて話をしましょう。

薬の話の前に、まず少し喘息のおさらい(過去の記事も参考に)です。喘息はアレルギーにより気管支の先端に炎症が起り、内腔が狭くなる病気です。喘息というとすぐに咳を思い出しますが、とくに問題となるのは気管支が狭くなるために起る呼吸困難です。この呼吸困難は喘息発作と呼ばれています。喘息にも程度の差があり、咳、喘鳴(ヒューヒュー、ゼーゼー)、呼吸困難まで様々です。以前の治療法は気管支を拡張すること(狭くなった気管支を広げる)に主眼が置かれていましたが、近年は気管支の炎症を押さえる事が主流になってきています。もちろんアレルギー(多くはダニ、ホコリ)が原因なので、アレルゲン(アレルギーを起こす物質)への対応も必要です。この喘息の治療に用いられる薬が、テオフィリンです。

当院で使用しているテオフィリン徐放製剤には、テオドールとテオロンがあります。テオフィリンには非常に長い歴史があり、小児用の顆粒製剤も20年以上使用されてきています。長年の使用経験から、近年までは比較的安全な薬と認識されていました。しかし、テオフィリンは劇薬に指定されているのも事実です。誤って大量に投薬すると血中濃度(血液中の薬の濃度)が上昇し、テオフィリン中毒が起き心拍数の増加、不整脈、けいれんなどの症状が現われ、時には死に至る事もあります。こう書くとなぞく怖い薬と思われそうですが、誤った過量投与でなければ、重症の中毒が起る事は無いので安心して下さい。

しかし、血中濃度の上昇は様々な因子に規定されていて、過量投与でなくても副作用が起る事が指摘されています。例えば乳児、発熱時、併用する薬剤などの影響によって、濃度が上昇することが知られています。近年、けいれんの関係が取りざたされ、テオフィリン関連けいれんと呼ばれています。血中濃度に比例しけいれんの頻度も高くなりますが、必ずしも血中濃度と比例するものばかりでなく有効濃度(一般的な治療に必要な濃度)でも起る可能性が指摘されています。このけいれんは持続時間が長く、意識障害を伴い、希には脳症と呼ばれる状態を引き起こすことがあります。2005年には、テオフィリンによる脳症の後遺症として7人のお子さんが認定されています。

さて話はまた変わりますが、喘息の治療はどう行われているのでしょうか。小児気管支喘息治療・管理ガイドラインがあり、ひとつの治療の目安にされています。2005年に改訂されたガイドラインでは、軽症例や乳児(とくに6ヶ月未満)では、テオフィリンを使用しない方向になりました。以前は軽症持続型にも使われていたのですが、今回の改訂

では中等症持続型の追加治療へと変わりました。当院では、乳児期(6ヶ月未満)には投与することは無く、ある程度症状が重いお子さんのみに投与しています。息苦しいなどの呼吸困難の症状があり、咳も含め日常生活(とくに夜間の睡眠)に支障を来している場合に投与しています。

ここまで書くと現在の服用に不安を覚えるかもしれません。しかし、従来から何も問題無く服用している人は、状況による対応は必要ですが続けて頂くことは構わないと考えています。当然とは言えませんが、薬には副作用があります。もちろん重症な副作用の頻度は高くありませんが、避けて通ることは難しいものです。その場合考えるべきことは、薬の有効性と危険性です。よく言われることですが、薬はもろ刃の剣といわざるを得ません。我々医師は薬の有効性と副作用についての十分な知識を持ち、有効性が上回る場合に限り投薬するということがとても重要な役割です。治療上有効な薬が、誤った判断で使われなくなることも心配です。確かに副作用の頻度が低いといっても、患者さんの生活を変えてしまうほどの重症な場合もあるので慎重に投与しなければなりません。薬の副作用に関する情報は、患者さんの目に触れることはあまりないかも知れません。2005年ガイドラインでは、6ヶ月未満には原則使用しない、2才未満のてんかんや熱性痙攣既往者には原則として推奨しない、発熱時には一時減量あるいは中止するかどうかの指導が必要と書かれています。参考にお渡ししているパンフレットを示しておきます。

今回のテーマで、少し薬と副作用について考えてみました。我々医師はもちろんのこと保護者の方々の理解を高めることが、副作用を予防する上でも重要なことと理解してもらえればと思います。

テオフィリン徐放製剤をお飲みになる お子様の保護者の方へ

主な副作用
テオドール、
テオロンなど

確認してください!

◎このお薬でめまいや吐き気、好ましくない作用(副作用)についてお薬は人によって、目的とする作用以外に、好ましくない作用(副作用)があらわれることがあります。本薬であらゆる副作用は、必ずお薬の添付文書に記載されています。お薬を飲む前、お薬を飲む時、お薬を飲む後、必ずお薬の添付文書をお読みください。

◎発熱したとき

発熱している状態で本薬を飲むと、副作用があらわれやすくなります。発熱が続き、お薬の添付文書に記載されているように、お薬を飲むのを中止してください。

発熱時にめまいや吐き気、好ましくない作用(副作用)があらわれることがあります。お薬を飲む前、お薬を飲む時、お薬を飲む後、必ずお薬の添付文書をお読みください。

◎その他

◎主治医の先生から受けたい指示を必ず守ってください。◎にチェックしてください。

◎ほかの先生にお薬をだしていただくとき、薬局でお薬を買うとき、お薬の中には本薬の作用を強めたり、弱めたりするものがあります。お薬を飲む前、お薬を飲む時、お薬を飲む後、必ずお薬の添付文書をお読みください。

◎お薬の添付文書に記載されている注意事項をよくお読みください。

◎このお薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

◎お薬をお飲みになる方は、お薬の副作用についてよくお読みください。

読者の広場

先月は17通のメールを頂きました。今回はスペースが少ないので、特に印象に残った1通だけ匿名で紹介します。「こちらにメールを送ってもよいものか悩みましたが、やはり、胸のうちの先生に伝えたく、ご迷惑かと思いましたがこちらから、失礼します。本日、宮城野区役所で1歳半検診で診て頂きました〇〇です。先生には、それこそ、1年以上ぶりでしたが、覚えていてくださり、本当に嬉しく思いました！。正直なところ、3人を連れて先生のところまで行き診て頂く元気が、私には残ってなくて、地元の小児科へお世話になることが多くなってしまっていました。ですが、いつも川村先生だったら…と思う日々でした。なので、



今日、先生にお会いできたことは私にとって、とても大きな喜びでした♪。先生にもお話したとおり、息子が7ヶ月のときの事故。私にとっては思い出したくない出来事でもあり、けれど念頭においておかななくてはいけない出来事として引きずる毎日をこの1年間過ごしてまいりました。息子が生まれたときは、本当に嬉しくて、一生守り抜こう！と誓ったはずが一転…。息子にとって、こんな母親で申し訳ない…とばかり思っていました。そう、今でもあの日のことを思うだけで、胸が苦しくなるばかりで。誰にも相談できず、ずっとなんと自分を隠し、ごまかしながら過ごしていました。出来るだけ、傷を見えないように帽子をかぶせたり…。息子のハンデにならないように…と、隠す日々でした。けれど、先生から頂いた言葉が私を救ってくれたんです！。こんな私でも、母親をもう一度頑張ってもいいのかな…って。もう一回、前を向いて、頑張っているのかな…って。本当にありがとうございました！！。感謝の気持ちでいっぱいなのですが、上手く伝えられないのがなんだが、もどかしいです。帰りの車中、隣でチャイルドシートに座っている息子を見て、これからはのんびりと私たちのペースで頑張っていこうと改めて思いました。お世話になっていた上の子達も小2と幼稚園…。日中は、息子と二人なのでいろんな経験を今まで躊躇していた分、取り戻したいと思います(^ ^)。これからは、先生の元へ元気と安心を頂きに足を運びたいと思います！！。3人の子育ては、まだまだ続くんですけどものね！。疲れたなんて言っ

予防接種の変更に関するお知らせ

先月も紹介しましたが、4月1日から予防接種法が変わりました。6月2日に再び改正になるので、内容を紹介します。

- (1) 生後12ヶ月～24ヶ月未満で以下に該当する方
混合ワクチン以外に、単抗原も定期接種に。
- (2) 小学校入学前の1年間

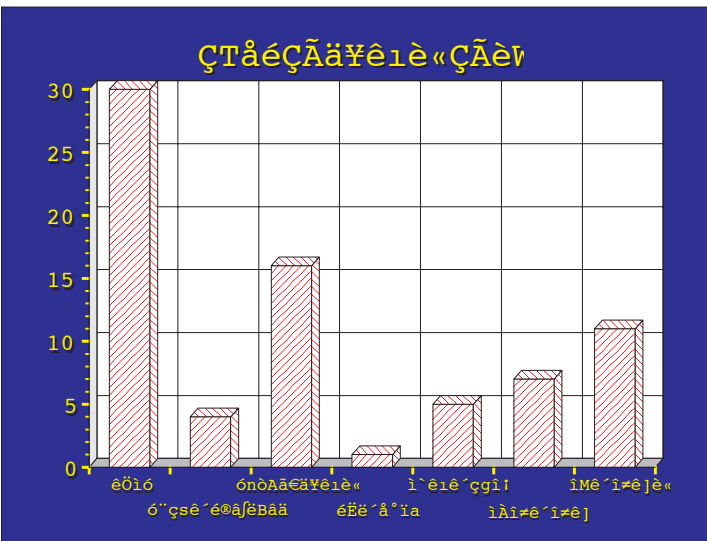
第1期接種者以外に、単抗原ワクチン接種者も含む。

経過措置接種(単抗原ワクチン)：仙台市民のみ

- ・ 生後24ヶ月～36ヶ月未満で以下に該当する方
- ・ 先日の案内通り(任意接種)、費用は仙台市負担。

36ヶ月～5才未満は定期接種から外れ、接種は任意接種、費用は自己負担となります。詳しくは院内掲示をご覧ください。不明な点はスタッフまで。

水痘は先月より10人も多く、過去最高を記録しました。おたふくは減少傾向で、溶連菌感染症は以前より減少はしていますが横ばいで例年よりはかなり多くみられています。グラフには示していませんが、インフルエンザは3名、流行している所もあります。高熱、目やにを伴うアデノウイルス感染症(咽頭結膜熱：プール熱)も比較的多くみられます。



てられないです。笑、先生！本当に本当にありがとうございました！！」。お母さんの気持ちがよく伝わってきます。久しぶりの出会いがお役にたてたようで、自分もすごく嬉しい気分になりました。こちらこそ、ありがとう。

お母さんクラブの御案内 新規会員募集中

6月15日(木) 14:00～ 福沢市民センター
食育ってなあに?? 栄養士 後藤さん担当

今、巷でよく聞く言葉「食育」。お子様の健やかな成長のために、考えてみませんか?。子どもの生活習慣の基礎は乳幼児期(小学校入学まで)に作られます。お子さんの年齢に関係なく役立つはずです。お土産もありますよ。御期待ください。

ケーブルテレビ放映のお知らせ

仙台市のケーブルテレビ各社で、仙台市医師会提供の「家庭の医学」が放映されています。6月は院長が担当した「新しくなったこどもの予防接種」が放映されます。キャバツとCAT-Vでは放映時間が異なるので、番組表で確認の上、是非ご覧ください。

6月のお知らせ

- ・ 午後臨時休診
- 6月10日(土) 神戸学会参加
栄養育児相談
毎週水曜日 13:30～
栄養士担当 参加無料
- ・ 医学部学生実習
6月23日(金) 毎月ですがご協力を！
虫歯に気をつけよう！！

編集後記

ここ最近、子どもの悲惨な事件や事故がありました。また子どもが親を殺害するような悲しい事件もあり、心を痛めています。なぜでしょう?。一方ジャワ地震では大きな被害が出て、死者が5000人をこえるとの報道もあります。いつものように義援金の箱を設置しました。ご協力をお願いします。



院長著書「小児科医がやさしく教える 赤ちゃん子どもの病気」の再版にご協力を。
詳しくは かわむらこどもクリニックHP(<http://www.kodomo-clinic.or.jp>)を